

EXPO 2005 EXPO NEWS だより

第4号

1999年(平成11年)6月30日号

Vol. 4

博覧会協会の業務計画を策定

2005年開催入着実に取り組み

博覧会協会では、このほど一九九九年度から二〇〇五年度までの業務計画を策定しました。

今年度は、来年半ばに予定されているBIE(博覧会国際事務局)総会による承認に向けて、会場計画や資金計画などを策定します。また、博覧会のシンボルマークを新たに制定する予定です。

中期的(二〇〇〇年度から二〇〇一年度)には海外への参加招請活動

の展開、会場計画の基本・実施設計、展示および催事等の基本・実施計画の策定、さらに来年開催されるドイツのハノーバー博の日本館でのPR活動などが予定されています。

二〇〇二年度以降の長期計画では会場建設、入場券の販売、現地プレセクター開設などが盛り込まれ、二〇〇五年三月二十五日開幕に向けて業務を進めていきます。

項目	1999年			2000年
	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月
1 BIE登録申請				BIE登録申請
BIE登録関連 申請原稿作成	[進捗バー]			
2 会場計画				施設配置計画
会場計画 恒久施設の選定()	[進捗バー]			
3 テーマの展開等				
テーマの具体化 展示・催事基本方針 参加招請条件等検討	[進捗バー]			
4 環境影響評価				
環境影響評価	環境影響評価手続き・追跡調査			
5 資金				
資金計画 財務委員会設立準備	[進捗バー]			
6 広報				
広報委員会 シンボルマーク 昆明博でのPR	5/1	*ジャパンデー(7/19)	10/31	決定
7 市民参加				
市民参加	全体計画の検討・具体策の展開			
8 イベント				
イベント		*キッズプレイキャンパス	*2000日前イベント *国際シンポジウム *国際アイデアコンペ表彰	

()国、県などの主導のもと展開

項目	2000年度		2001年度	
	4月~9月	10月~3月	4月~9月	10月~3月
1.参加招請				
登録申請関連 参加招請	*BIE総会による承認 *参加招請状発出 参加招請活動の展開			
2.会場計画				
会場計画 恒久施設の選定()	基本設計・実施設計			
3.環境影響評価				
環境影響評価	追跡調査等			
4.展示、催事等				
展示、催事 開・閉会式等式典	基本計画策定		実施計画策定・設計作業 基本方針決定 実施計画策定	
5.資金				
財務委員会 資金募集	*設立			
6.広報				
広報委員会 ポスター(シンボルマーク入り) ハノーバー博対応	6/1	*作成 ジャパンデー(7/25) 日本館におけるPR等	10/31	*旗渡りセレモニー
7.市民参加				
市民参加	具体策の展開			
8.イベント				
イベント	*国際シンポジウム		*国際シンポジウム	

()国、県などの主導のもと展開

2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
*会場建設工事着工 *ナショナルデー実施要領策定 *開・閉会式実施計画策定 *参加招請活動の展開 *協賛イベント開催 *入場券(2年前券)販売活動 *1000日前イベント	*参加招請活動の中間とりまとめ *出展国政府代表者会議 *VIP招待調整 *運営スタッフ採用開始 *500日前イベント、1年前イベント	*万博村供用開始 *現地プレセクター開設 *開催準備・調整 *会場建設工事完了 *博覧会開幕(3/25)	*博覧会開催 *博覧会閉幕(9/25)

2005年日本国際博覧会

会場候補地
愛知県瀬戸市南東部

開催期間
2005年3月25日~9月25日

理事会・評議員会を開催



オオタカの保護について語る豊田章一郎会長

博覧会協会では、三月十九日に第五回の、また六月十五日に第六回の理事会・評議員会を開催し、それぞれ平成十一年度の収支予算・事業計画、平成十年度の決算・事業報告について承認を得ました(概要は次項のとおり)。

また、博覧会の会場予定地でオオタカの営巣が確認されたことについて、六月の理事会・評議員会で豊田会長は「博覧会を実施する中でオオタカの保護を行うことは、まさに、本博覧会のテーマである自然の叡智を体現することににつながる。二十世紀における自然と人間との新しい関係を見いだすべく、この問題の解決に向けて関係者が力をあわせて真剣に取り組んでいくことが大切」との考えを挨拶の中で示しました。

平成十一年度収支予算

予算額は、収入・支出ともに六十五億九千二百萬円で、十年度予算と比較すると、三十三億四千万円の増加となっています。

平成十一年度事業計画

平成十年度の事業成果をさらに本格化するため、より具体的な会場基本計画の検討及び環境影響評価の実施に取り組むとともに、市民参加促進事業、広報普及活動、BIE(博覧会国際事務局)への登録申請準備等を強力に展開します。

組織の強化

今後業務量が増大することに伴い、協会の組織を拡充・強化いたしました。従来の部課制をグループ(室)・チーム制に変更し、弾力的な人員配置ができるようにしました。新設部署として、広報室、出納室、市民参加促進グループ、財務グループ、資金グループを設置しました。

平成十年度事業及び決算報告

博覧会の全体構想及び会場計画の策定について企画調整会議や会場計画・環境・観客輸送・コンセプトの各プロジェクトチームの各と検討を進めるなど、着実に事業を執行しました。決算額は、収入合計二十二億五千九百万円、支出合計二十一億九千七百万円、次期繰越六千二百萬円でした。

シンボルマーク制定に向けて

EXPO2005 公開セッションを開催

EXPO2005のシンボルマーク制定に向けて、その方向性を探ることを目的に、五月二十三日に名古屋市・ナディアパーク・デザインホール、六月五日に東京・原宿クエストホールで「EXPO2005シンボルマーク制定に向けて」時代が変わる。デザインが変わる。」と題した公開セッションを開催しました。



永井一正さんの基調講演

今回の公開セッションは、博覧会のテーマを表現し、二十一世紀の世界の人々に共感を得られるようなシンボルマークは何かを、議論の段階から市民の皆さまに参加していただき、幅広い視点から考えるために実施したものです。

内容は名古屋、東京会場とも基調講演とパネルディスカッションで構成しました。基調講演は両会場とも（社）日本グラフィックデ

ザイナー協会会長（株）日本デザインセンター代表取締役の永井一正さんが「国家プロジェクトとシンボルマーク その歴史と役割」と題して過去の博覧会やオリンピックなどのシンボルマークの事例をスライドを使って説明し、デザインの与える影響や、これからのあり方について講演しました。



名古屋会場での公開セッション
(写真左から残間里江子、伊丹敬之、岡本滋夫、日比野克彦、松永 真、森旬 子の各氏)



東京会場での公開セッション
(写真左から残間里江子、中沢新一、浅葉克己、高北幸矢、原 研哉、山内瞬葉の各氏)

間里江子さん（プロデューサー）をコーディネーターに、それぞれ五人のパネリストによる討論が展開されました。

名古屋会場では、伊丹敬之さん（一橋大学商学部教授）、岡本滋夫さん（名古屋造形芸術大学教授）、日比野克彦さん（アーティスト）、松永 真さん（グラフィックデザイナー）、森旬子さん（グラフィックデザイナー）。

東京会場では、浅葉克己さん（アートディレクター）、高北幸矢さん（視覚環境デザイナー）、中沢新一さん（中央大学総合政策学部教授）、原 研哉さん（グラフィックデザイナー）、山内瞬葉さん（グラフィックデザイナー）を迎えました。

それらの会場では、伊丹さん、中沢さんから博覧会の開催概要、意義、会場計画、テーマをわかりやすくした十二の森構想などについて説明がされたあと、

「デザインのあるあり方と今後望まれるシンボルマークのあり方について議論しました。また、会場参加者からの質問に各パネリストが答えていくなど有意義な討論会にすることができました。参加者は若い人が多く、

十代と二十代の人で六割を超えました。会場で回答していたアンケートでは、何らかのかたちでEXPO2005に参加してみたいという声が全体の四分の三以上あり、博覧会への参加意識が高いことがうかがえます。

また、デザインが大型イベントの成否に影響を及ぼすと思う人が八割を超え、博覧会のような大規模事業にはデザインが大きな役割を果たすと考える人が多いことが分かりました。今後は、この討論会で頂いた貴重なご意見をシンボルマークの制作に活かしてまいります。

[森の博覧会のアイデア]
を募集しています
締め切り / 7月31日(土)

EXPO2005は「参加型の博覧会」です。その一環として、広く国内外の方から多様な「森の博覧会のアイデア」を募集しています。森の自然と調和し森を舞台とする博覧会として、自然と人間のコミュニケーションを創造するアイデアをお待ちしています。

15歳以下と一般(16歳以上)の2部門制です。
個人でもグループでもOK。
締め切りは1999年7月31日(土)(当日消印有効)
発表は1999年9月下旬の予定。
最優秀賞には賞金100万円(一般の部)
応募先:〒101-8681 東京都千代田区神田郵便局 私書箱202号HHD 2005年日本国際博覧会国際アイデアコンペ事務局
詳しくは、TEL03-5446-4939 FAX03-5446-8795
ホームページ <http://www-idea.expo2005.or.jp/>



新しいパンフレットができました

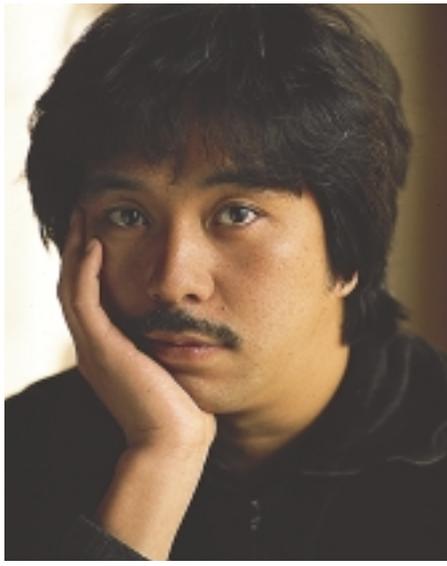
このほど博覧会の新しいパンフレットを制作して配布を始めました。それぞれ日本語、英語、中国語版があり、リーフレットはフランス語版も制作しました。

パンフレットはA4判28ページで、EXPO2005の特徴、展示プログラムの考え方を示した「十二の森」構想、会場基本計画や環境・エネルギーなどこれまでに検討されてきた内容を分かりやすくまとめました。また、「一五〇年

の感動」と題してEXPOの歴史を知っていただくこともできます。各ページの背景には森のイメージイラストに、博覧会協会の一九九九年版カレンダーで話題になった江戸時代の図鑑「本草図説」（高木春山作、西尾市岩瀬文庫所蔵）に収録されている動植物や鉱物をあしらった、ビジュアルイメージが配されています。これは本博覧会のテーマである「自然の叢智」を視覚的に訴えるとともに、テーマをもとに何かが生み出されつつある博覧会の姿を表現しています。

一方リーフレットはA4判の三つ折りで博覧会のコ

ンセプトや会場基本計画などの現在までの検討状況を概説したものとなっています。



伊藤俊治教授

博覧会協会では、博覧会の企画・運営について、さまざまな分野の専門家の皆さんに委員として参加していただいています。このコーナーでは委員の皆さんの博覧会に対するご意見を紹介します。

今回は、企画運営委員並びに広報聴取委員でデザイン専門委員会の座長でもある多摩美術大学の伊藤俊治教授に登場していただきます。

『生きのびるためのデザイン』という本を書いたウイクター・パバネックは、かつて、いまだに流行遅れにもならず、今後も決してならないだろうデザインの最良のハンドブックは「自

然」であり、環境からエネルギーまで、現在、人類がぶつかっているさまざまな問題は、自然系、生命系の全体においてはすでに解決済みであると語ったことがあります。

然「であり、環境からエネルギーまで、現在、人類がぶつかっているさまざまな問題は、自然系、生命系の全体においてはすでに解決済みであると語ったことがあります。

この意味深い指摘は、20世紀の終りに生きる私たちが常に思い起こしてゆかなければならないことでしょう。私が、二五年日本国際博覧会に参加しようと思ったのも、「自然」という人類にとつての最良のハンドブックを新しい形で読み解いていく試みに、芸術文化の視点から取り組んでみたいと考えたからです。

私たちは今、「自然」という概念など消えてしまっただかのような時代に生きています。しかしそうした危うい時代だからこそ、「自然」をどのように感じ、ど

EXPO 2005 サマーキャンプ キッズ・プレイキャンパス

参加者募集 1999年8/5(木)～8(日) 3泊4日

キッズ・プレイキャンパスは2005年日本国際博覧会のイベントとして子供たちを対象として開かれるサマーキャンプです。博覧会のテーマである「自然の叢智」にちなんで、「からだのふるまい」をキーワードに「衣」「食」「住」「遊」の4コースが展開されます。4人のプロフェッショナルが、参加者とともにモノづくりを行い、ワークショップ型のサマースクールを体験します。

このイベントは、博覧会協会企画運営委員である東京大学船曳建夫教授のご提案によって、「博覧会の成果を継承するのは次代を担う子供たちである」という視点のもと博覧会協会が関係の皆さまとともに実行委員会を組織して準備をしているものです。

夏是一年の頂上にある。その夏に出会ったことは、それから冬が何回来ようとも、君は忘れない。

キッズプレイキャンパスは、この夏、暑い風が吹き渡る丘の頂上で開催される。4人の素晴らしいおとなと、80人のキッズがそこに出会う。着ること、食ること、住むこと、遊ぶこと、それがこのキャンパスの主要4科目。でもそれだけじゃない。太陽が照り、風が吹くこの丘に何が起きるのかまだ誰も知らない。それを創るために、君は、からだど心だけを持って、一人で来てくれ。



船曳 建夫さん (ふなひ けんお)

【参加要項】

実施日程 / 1999年8月5日(木)～8日(日) (3泊4日) 参加費 / 10,000円 会場 / 愛知県瀬戸市(愛知県労働者研修センター・瀬戸市定光寺野外活動センター) 募集人数 / 各コース20名程度 合計80名 応募資格 / 小学校6年生～高校2年生の男女(昭和57年4月2日～昭和63年4月1日生まれの男女) 応募方法 / ご希望のコース

(衣・食・住・遊のいずれか1つ) その選択理由、お名前、住所、性別、生年月日、電話番号を明記のうえ、FAXまたは封書にて下記までお申し込み下さい。

応募締切 / 1999年7月12日(月)必着 お問い合わせ・お申し込み先 / EXPO2005 キッズ・プレイキャンパス 99事務局 〒460-8445 名古屋市中区栄4-16-36 TEL&FAX 052-242-5630

自分のなかの自然、「自然」のなかの自分



のように受けとめてゆくべきかを考えるにふさわしいのかもれません。そして見逃してはならないのは、実は日本という国が、「自然」のなかに

み、そこへ消え去ってゆくとする方向を抱え込んでいくということです。「自然」とは私たちの外にすでにあるものというより、私たちの内部に生まれてくるものなかもれません。大きなパラダイムの

衣コース 地球を身につける! コスチュームアートコース

日常の身につける行為とは違うことをしてみましょう。自分で作った帽子で、自分をどんな風に開放し、変身できるか楽しみです。

講師:ひびのこづえさん(コスチュームアーティスト)



食コース 地球の恵み再発見! アース・クッキングコース

夏の青い空の下で、仲間とふれあい、大地の恵みを素材に、ぼくたち自身の料理を作ろう。さあ、料理の世界へ探検しに出かけよう。

講師:脇屋 友詞さん (パピパフィツホテル横浜「トウランド」中国料理 総料理長)



住コース 地球が素材! リビング・アートコース

自然や環境を意識した素材を用い、自然と人との共生を表現した「僕の家」のデザインを創作し、実際に製作します。

講師:隈 研吾さん (建築家、EXPO2005会場計画PTリーダー)



遊コース 地球も大笑い! グローバル狂言コース

600年前に生まれた心身共に健康な狂言の笑いを自分の心で感じ、けい古を通じて未来に翔くみんなの感性を育てよう。

講師:和泉 元彌さん (狂言師、和泉流二十世宗家)



T O EXPO 2005 C S

EXPO 2005 トピックス



各国の観光関係者が集まったランチオンミーティング

[PATA総会]

黒田事務総長が EXPO 2005を紹介



EXPO2005を説明する黒田事務総長

EXPO2005開催決定二周年と瀬戸市制施行七十周年を記念して、六月十三日に瀬戸市文化センターと南公園芝生広場において「1999ハッピーバースデー to EXPO2005」が開催されました。梅雨のあいまいな晴天に恵まれ、たくさんの人出でにぎわいました。

博覧会も瀬戸市もハッピーバースデー

環境が重視される時代。オタカ力の営業が発見されたことはむしろいい試練・課題であり、これを克服する中で世界中に向かって二十一世紀の新しいライフスタイルを提示していきたい。豊田会長は「二十一世紀には、リサイクル社会の到来をはじめ、たくさんの夢が実現するだろうと予測されています。この博覧会で皆さんの持っている夢やアイデアを実現していくようなものにしていきたい」。増岡市長は「瀬戸市は土地の約七割が緑豊かな山。その緑と調和した、散策しながら遊べるような環境



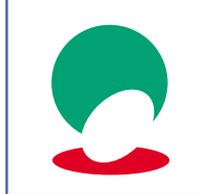
EXPO2005にける「夢と期待」を語る (左から)神田愛知県知事、豊田博覧会協会会長、増岡瀬戸市長



家族連れでにぎわうリサイクルマーケット

PATA(太平洋アジア観光協会)の年次総会が、四月十八日から二十二日まで、名古屋国際会議場で開催されました。PATAは、太平洋アジア地域の観光発展を目的に設立された団体で、各国の政府機関や旅行者、ホテル業者などが会員となっています。千六百人(うち海外から八百人)が集まった今回のPATA総会は、博覧会をPRする絶好の機会となりました。

博覧会協会が現在使用しているこのマークは、誘致の際に制作されたものです。



中でも、四月二十日のランチオンミーティングでは、PATAによる博覧会のプレゼンテーションが行われ、各国の政府関係者や観光業者に対し、二〇〇五年に日本で国際博覧会が開催されることを強く印象づけました。さらに、四月二十一日の全体会議では、「メガイベント」の開催とその活用「の



恒例の春のふれあい広場」が、ゴールデンウィーク中の五月二三日に東京・渋谷のNHK放送センター前広場で開催されました。

旅の総見本市である「旅フェア99」が、四月二十一日から二十五日まで、ナゴヤドームで開催されました。

[旅フェア 99]

スロットとマジックでPR

博覧会協会のブースの中で来場者の皆様に好評を博したのは、2005の数字が揃えば、万博せんべいなどの賞品が当たる「EXPOスロット」ゲームでした。合計二五〇を越える出展ブースの中でも長い人の列ができていました。(旅フェア実行委員会主催)



好評を博したEXPOスロットゲーム

EXPO2005クイズ

EXPO 2005 は、1851年に開催されたロンドン万博以来、約150年の歴史を持つ 的行事である 博覧会です。

に入る字は何でしょう。

(2カ所とも同じです)

答えの分かった方は、はがきに、クイズの答え 住所 氏名 年齢 電話番号 アンケートの回答 - を記入し、次のあて先までお送りください。

[アンケート]

- Q1 「EXPO2005だより」の入手先
- Q2 「EXPO2005だより」についての感想、要望

あて先 / 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階 (財)2005年日本国際博覧会協会 「EXPO2005クイズ」係 締め切り / 平成11年8月20日(必着) 抽選で30名の方に記念品を贈呈します(発表は、記念品の発送をもって代えさせていただきます)

博覧会協会のPRブースでは、アンケートにお答え頂いたお客さまに、もれなくEXPOグッズがある「スマートボール」を実施。

特にTシャツやキャップ、万博せんべいなどが人気を呼び、パビリオン前さながらにゲームを待つ長蛇の列ができました。お待ち頂くお客さまには、新しいリフレットや協会イベントの紹介チラシを配布、会場空撮写真パネルや博覧会の検討状況の紹介ビデオをご覧頂くなど大いにEXPO



スマートボールを楽しむ親子

ワクワクドキドキふれあいの春

両日とも晴天に恵まれた今年、二日間で七万三千人が来場し、終日多くの家族連れでにぎわいました。

をPRしました。

発行 財団法人2005年日本国際博覧会協会 発行日 1999年(平成11年)6月30日 編集責任者 楠本 孝 部数 135,000部

名古屋事務所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階 TEL 052-569-2005 FAX 052-569-2100

東京事務所 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1-1 飯野ビル7階 TEL 03-5521-1601 FAX 03-5521-1607

「EXPOの耳」あて先 インターネット・ホームページアドレス <http://www.expo2005.or.jp> ご意見をお待ちしております。 「EXPOの耳」Eメールアドレス voicebox@expo2005.or.jp

